



南あわじ TEN TEN TEN
南あわじ市

異業種交流活性化
支援事業を活用して



メンバー
松岡 優司

- “売れる商品”が完成した
- フードロス解消につながった
- 6次産業化への足掛かりとなった



作業場の様子

B級品タマネギをキムチに商品化 メンバーで力合わせ売り上げ増を目指す

試行錯誤の末に完成

南あわじ市の農産物直売所で店長を務める^{ぐみ}菜葉健太さんが、「市場に出回らないB級品のタマネギを有効活用し、土産物になる商品を作りたい」と着想したのは5年ほど前のこと。所属する経営者グループ「南あわじ TEN TEN TEN」のメンバーに呼びかけたところ、そのうちの一人が南あわじ市商工会経営支援課の大上兵真さんを知っていたことから「異業種交流活性化支援事業」の活用につながりました。

「作った商品が売れてこそ、事業は意味を持つ」という大上さんの考えから、広報ジャーナリストの福満ヒロユキさんをアドバイザーに迎え、タマネギを使ったキムチを開発することに。当初は苦みや辛みが際立ち、難航を極めました。あらかじめ水分を抜くことが肝だと分かったものの、収穫時期で含水量が異なるため、通年で味が安定するまでに2年を要しました。

商品名は「かっこいい名前より、覚えやすい名前を」と、福満さんが考案した「キムチの玉様」に決定。パッケージはタマネギの皮をむくように開けられるデザインとし、裏面にはフードロス解消への思いや淡路島の特産

品の情報を載せました。

メンバーそれぞれができることを

発売日は「キムチの日」に当たる2020年11月22日。事前のプレスリリースが功を奏し、新聞に取り上げられました。各メンバーの店や道の駅に商品を並べ、上々のスタートを切ったものの、製造能力に限界があるため売り上げの天井を設けていました。そこで「自分がメーカーになる」と立ち上がったのが、メンバーの一人で商品の試作を担当した松岡優司さんです。

福井県出身の松岡さんは南あわじ市にある吉備国際大学の農学部を卒業。産直施設勤務を経て、地域おこし協力隊に参加したことが縁でグループに加わりました。「食品関係で起業したいと思っていました」と松岡さん。メンバーの店の一角を製造所として借り、菜葉さんの直売所に入入りしている農家からB級品を入手するルートを構築し、製造量は当初の3倍に増えました。

今年5月にはレタスを活用した第2弾商品「キムチのレタ姫」を発売。メンバーの武田諭さんは経営するアウトドアショップと自社の通販で2商品を販売するなど、メンバーそれぞれができることをしながら事業は自走し

制度利用の流れ

2019年3月中旬

事業計画書を南あわじ市商工会へ。兵庫県商工会連合会を経由し、県地域経済課へ提出

3月下旬

南あわじ市商工会に県から認定の通知が届く

4月1日

事業を開始

※2022年度で新規採択を終了しました



タマネギをヤンニョム(キムチの素)で和えます



目を引くパッケージデザイン

つつあります。南あわじ市は豊かな農水産物がありながら、それらを加工するメーカーが少ないことが6次産業化を阻んでいました。松岡さんが中心となってその役割を担うことで市内にとどまらず、県内の農水産資源を生かす役割を果たしていこうとしています。

南あわじ TEN TEN TEN

H <https://tententen.mystrikingly.com>

問 リプラス T 090-6813-3082

●代表/松岡優司

●事業内容/タマネギおよびレタスのキムチ、ピクルスの製造販売



キムチに適したサイズにカットしたタマネギ

異業種交流活性化支援事業

異なる業種の中小企業者等で構成されるグループが実施する新分野進出、新商品・サービス・技術の開発、販路開拓等に対し補助金を支給します。

2022年度で新規採択を終了しました

問 ひょうご産業活性化センター異業種連携相談室

T 078-977-9073

だけ

あなたの本を

「オーダーメイド」

<https://kobe-selfpub.jp>
 KOBE 自費出版 web
 こちらから



自費出版
見積り無料

まずは電話かメールでお問合せください
 TEL. 078-362-7140
 ☐ jihishuppan-kpc@kobe-np.co.jp

神戸新聞総合出版センター
 株式会社 神戸新聞総合印刷
 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7